

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成24年度病虫害発生予報第8号（11月）について

このことについて、病虫害発生予報第8号を発表したので送付します。

予報第8号

11月における主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

主な病虫害の発生予報概要

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (11月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	炭疽病 ハダニ類	並 やや少	並 やや少	並 やや少
冬春ナス	すすかび病	並	並	並
野菜共通	ハスモンヨトウ オオタバコガ ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少 並 多 並	並 並 やや多 並	並 並 やや少 並

<予想される向こう1か月の天候（平成24年10月27日～11月26日）>

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は平年より低いでしょう。降水量は平年より多いでしょう。日照時間は平年より少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は低く、2週目以降は平年並でしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	40	30	30
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

（福岡管区气象台 平成24年10月26日発表抜粋）

作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。

注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

【野菜：イチゴ】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病株率 0.3%（平年 0.3%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている（±）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は、残さを残さずに周囲の土ごと掘り取り、ほ場外で処分する。

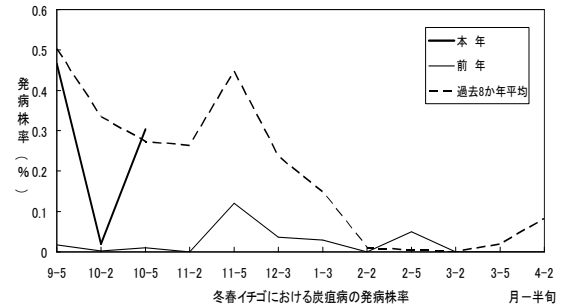
イ ビニル被覆後のハウス内温度上昇により、潜在感染株が発病しやすくなる。

また、着果負担は発病を助長する。

ウ ハウス内の排水を図り、多湿にならないようにする。

エ 無病親株の確保のため、11月から発生する秋期ランナーより採苗する。

オ 農薬の使用及び散布等にあたっては、P6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

寄生株率 2.3%（平年 5.4%、前年 1.3%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている（-）。

(3) 防除上注意すべき事項

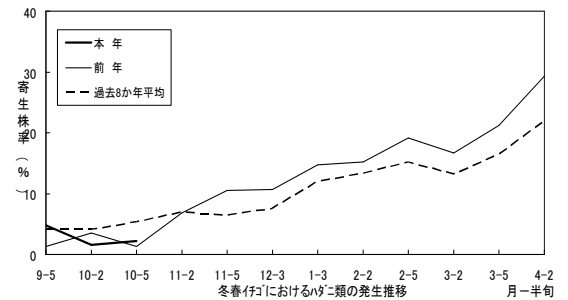
ア 初期はスポット的に発生し、下位葉に寄生が多いので、

葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。

イ 防除は、摘葉後に行うと効果的である。その際葉裏に薬剤が十分かかるようにする。

ウ ほ場内と周辺の除草を徹底する。また、摘葉や除草した雑草はハウス内に放置せず、ビニル袋に入れ密封し処分する。

エ カブリダニ類等の天敵の利用は、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布し、ハダニ類の密度を下げてから実施する。



【野菜：なす】

1 すずかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0.7% (平年 0.8%、前年 0%)

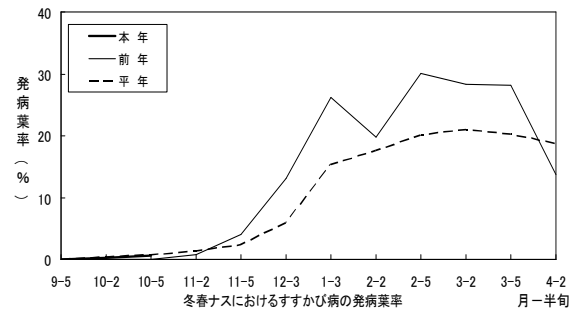
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

ウ 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【野菜共通】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける10月1～5半旬の合計誘殺虫数は、前年より多かった(+).

筑紫野市 1,315頭 (平年 1,642頭、前年 713頭)

柳川市 4,059頭 (過去3年の平均 3,197頭、前年 2,608頭)

行橋市 262頭 (過去2年の平均 1,351頭、前年 242頭)

イ 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-).

イチゴにおける寄生株率 0.7% (平年 1.3%、前年 0.6%)

キャベツにおける寄生株率 0.3% (平年 0.4%、前年 0.5%)

レタスにおける寄生株率 0.7% (平年 0.7%、前年 0.2%)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(-).

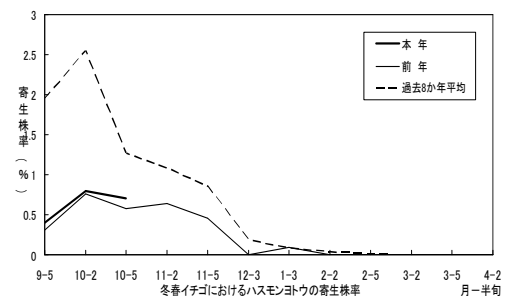
(3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫は薬剤の効果著しく低下するので、孵化直後から3齢幼虫期までに薬剤防除を徹底する。

イ 若齢幼虫は群生しており、かすり状の葉をみつけたら直ちに除去する。

ウ 施設栽培では成虫の飛び込み防止のため、4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。



2 オオタバコガ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 県下6カ所のフェロモントラップにおける10月1～4半旬の平均誘殺虫数は、平年並であった(±)。

平均誘殺虫数 97.31頭 (平年 113頭、前年 59頭)

イ 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

キャベツにおける寄生株率 2.8% (平年 3.2%、前年 2.0%)

レタスにおける寄生株率 1.3% (平年 3.8%、前年 2.9%)

イチゴにおける寄生株率 1.6% (平年 1.2%、前年 0.3%)

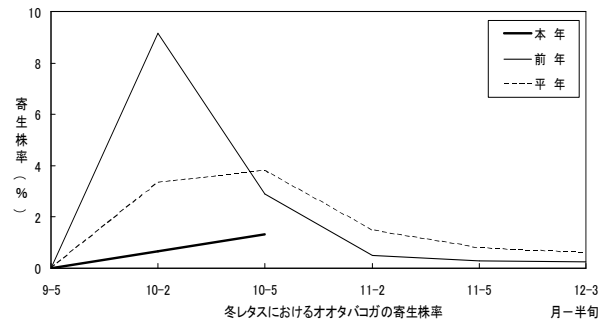
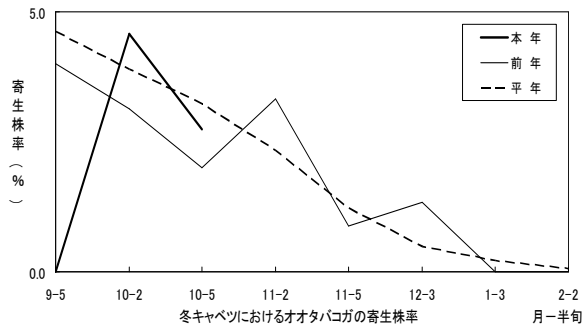
ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(一)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫は薬剤の効果著しく低下するので、孵化直後の幼虫を狙って防除を行う。

イ レタスではビニル被覆前に防除を徹底する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



3 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査結果、発生量は平年より多かった(+)。

ナス寄生葉率 29.7% (平年 20.0%、前年 36.7%)

ナス発生ほ場率 100% (平年 82.9%、前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(一)。

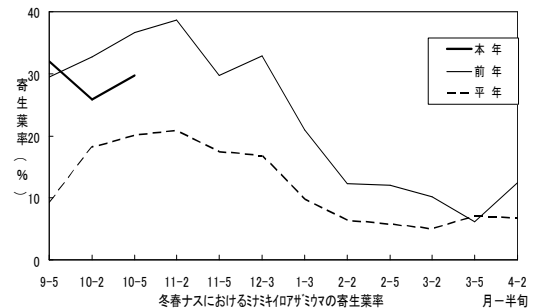
(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないように丁寧に散布する。

また、多発した場合は、約一週間後にもう一度薬剤散布を行う。

イ ほ場内外の雑草を徹底して除去し、害虫の生息、増殖源を絶つ。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



4 コナジラミ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

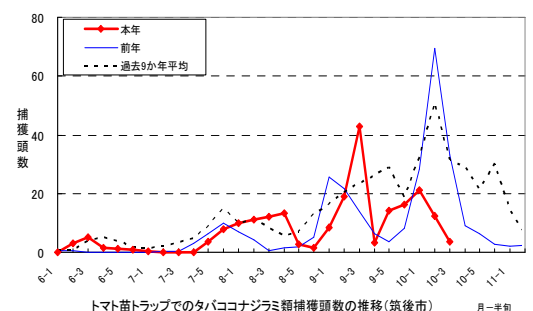
ア 10月5半旬調査の結果、発生量はナスでは平年より少なかったが、トマトではやや多であった(±)。

ナス寄生葉率 17.6% (平年 28.1%、前年 15.2%)

トマト寄生葉率 3.0% (平年 0.7%、前年 3.9%)

イ トマト苗トラップにおける10月1～3半旬の合計捕獲頭数は、平年より少なかった(一)。

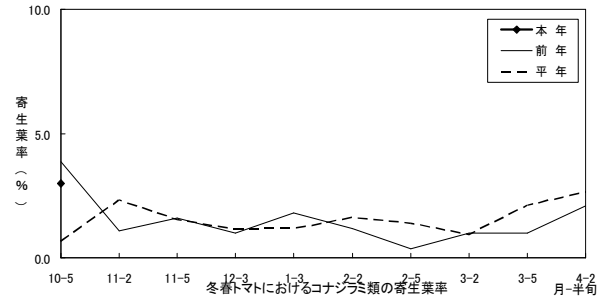
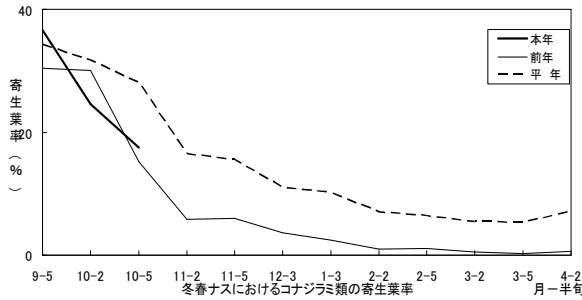
筑後市 37頭 (過去9カ年平均 115頭、前年 131頭)



ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている（一）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。
- イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。
- ウ 葉裏や下位葉にも、薬液が十分かかるよう散布する。
- エ 施設栽培では成虫の飛び込み防止のため、0.4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- オ トマト黄化葉巻病(TYLCV)の罹病株は、早期に抜き取りほ場外へ持ち出す。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
イチゴ うどんこ病	並	並	並	・ビニール被覆後は発生が多くなるので、発生状況には十分注意し、防除を徹底する。
ナス 灰色かび病	並	並	並	・散布ムラができないように、丁寧に薬剤を散布する
トマト 葉かび病	並	並	並	・整枝、剪定を行い、通風を良くする。 また、肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。
キャベツ 黒腐病 菌核病	並 並	並 並	並 並	・予防散布に努める。 ・防除適期は結球開始期である。 株元に十分かかるように、株の周囲から散布する。
コナガ	やや少	やや少	並	・若齢幼虫期に防除する。
レタス 灰色かび病	並	並	並	・発病株は、抜き取り処分した後、直ちに薬剤散布する。
菌核病 腐敗病	並 並	並 並	並 並	・灰色かび病との同時防除を行う。 ・凍害にあうと被害が激しくなるので、トンネル被覆が遅れないようにする。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では農薬の安全かつ適正使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮等、関係機関、団体と一体となって取り組みます。

散布者の安全はもちろん、人・作物・有用昆虫・環境に対する配慮について、指導を願います。

なお、「ベンゾエピン」を含む製品（商品名：マリックス、チオダン）が平成24年4月から使用禁止農薬になりましたので、併せて指導を願います。

1 農薬ラベル確認の徹底

（適用作物・使用量や濃度・使用時期・総使用回数）

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する

（例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる）

2 散布前における情報提供の実施

- ・事前に周辺住民や養蜂関係者へ農薬使用に関する十分な周知に努める

3 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策の徹底

- ・風、散布方向、散布時間、散布圧に留意
- ・飛散しにくい農薬（剤型）や、飛散が少ないドリフトレスノズルを使用
- ・散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意

4 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を3回洗浄

5 防除履歴の正確な記帳

- ・薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布年月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳

6 空容器の適正な処分

- ・野焼きは法令で禁止されているので行わない

福岡県病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>
電子メール byougaichuboujyo@pref.fukuoka.lg.jp